

- 茂・広瀬弘幸・瀬戸良三 (1962) カワモズク属 3 種の変異. 植雑 72 (887) : 199-204.
 5) KYLIN, H. (1917) Über die Entwicklungsgeschichte von *Batrachospermum moniliforme*. Ber. deut. Bot. Ges., 35 : 155-164. 6) 齊田功太郎 (1887) バトラコスペルマム属の発生. 植雑 1 (3) : 51-53. 7) SIRODOT, S. (1884) Les *Batrachospermes*. Paris.
 8) SMITH, G. M. (1950) The fresh-water algae of the United States McG Hill. New York.
 9) YOSHIDA, T. (1959) Life-cycle of a species of *Batrachospermum* found in Northern Kyushu, Japan. Jap. Jour. Bot., 17 (1) : 29-42.

紅藻植物ナガオバネ *Schimmelmannia plumosa* (SETCHELL) ABBOTT 茨城県海岸に産す

中 庭 正 人*

M. NAKANIWA : Occurrence of *Schimmelmannia plumosa* (SETCHELL) ABBOTT in Ibaraki Prefecture.

ナガオバネ *Schimmelmannia plumosa* (SETCHELL) ABBOTT はイトフノリ科 (Gloiosiphoniaceae) に属する濃い紫紅色の羽根を思わせる美しい海藻である。この海藻は、1912年に SETCHELL により、アメリカの California 州の Pacific Grove で採集した標本を基準にし、新属新種の *Baylasia plumosa* SETCHELL として発表された種であった。その後、瀬川¹⁾、ABBOTT²⁾の研究により、この藻はリュウモンソウ科 (Dumontiaceae) に属するものではなく、イトフノリ科の *Schimmelmannia* 属の 1 種とすることが適当であるとされ現在にいたっている。

私は、数年来茨城県産海藻のフロラを調査しているが、ナガオバネを次の 2 地点で採集することができた。すなわち、日立市久慈浜 (1968. 3. 3) の久慈川川口附近 (図 1) と、日立市河原子 (1969. 2. 8) である。いずれも、波が直接あたって、しぶきが流れ落ちる低潮線付近の岩上に生育していた。これは、茨城県沿岸では初めての記録である。

日本およびその近海におけるこの海藻の分布についてみると、まず、岡村³⁾は江ノ島で発見し、1926年わが国で開催された太平洋学術会議の折に、来日された SETCHELL に同定していただいて、この種にあてたと日本藻類図譜に報告している。1936年の同博士⁴⁾

*茨城県日立第二高等学校 (茨城県日立市桜川町4-18-9)

の日本海藻誌には産地として、江ノ島と因幡東村の2ヶ所があげられている。その後、瀬川¹⁾は伊豆大島と三宅島で採集し、広瀬²⁾は兵庫県香住で採集し、千原(私信)は伊豆半島の須崎と吉佐美で採集したとのことである。

なお最近韓国の KANG³⁾は、この海藻を日本海のウツリョウ島で僅か数個体ではあるが採集したと報じている。

以上のことからわかるように、日本近海におけるナガオバネの生育の知られた地域は極めて数が少ない。しかも、その生育地のいずれもが、温帯性海域である。今回私がナガオバネを発見した日立市付近は、特に冬期に寒流の影響を顕著に受ける地域であり、この点興味ある新産地といえよう。

千原博士によると、ナガオバネの type locality である Pacific Grove は緯度の上では茨城県と、ほぼ同じであり、またその地の海況や海藻植生の様子は茨城県や東北三陸地方のそれらと多少似ている点があるという。ナガオバネと同じように SETCHELL 博士により新種として記録された type locality を San Francisco にもつミチガエソウ (*Pikea californica* SETCHELL) が日立付近や隣の福島県沿岸に多産する事実と相俟って、茨城県におけるナガオバネの生育の発見は、海産植物の地理的分布を考える上で興味深い事実を提供したものといえよう。なお、ナガオバネの生育は、藻体の発見された岩上に、翌年再び、藻体を見ることはまずないという。しかも、今まで発見された藻体は配偶体のみであって、四分孢子体の生育は知られていない。今後の継続的観察により、この海藻の季節的消長をはっきりさせたいと思う。

稿をまとめるにあたり、いろいろご教示下されたうえ、貴重な文献をいただき、本稿をご校閲下さった国立科学博物館の千原光雄博士、また常日頃ご指導をいただいている恩師茨城大学教授佐藤正己博士に深謝する。なおナガオバネの標本の一部は、国立科学博物館および茨城大学におさめた。

Summary

In the course of my study on the marine flora of the coast of Ibaraki Prefecture, I have encountered a beautiful and rare red alga, *Schimmelmannia plumosa* (SETCHELL) ABBOTT, at two localities: Kujihama and Kawarago in Hitachi City. They were

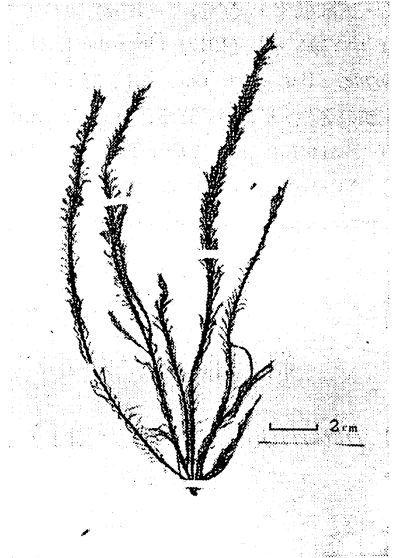


図1 ナガオバネ *Schimmelmannia plumosa* (SETCHELL) ABBOTT (日立市久慈浜産)

discovered on rocks at the lower intertidal zone exposed to surf wave. This is the first record of this alga from Ibaraki Prefecture. It is interesting to note that this alga was found for the first time on the coast of Ibaraki and adjacent regions. From the distributional point of view, the present alga is as noteworthy as *Pikea californica*.

文 献

- 1) ABBOTT, I. A. (1961) On *Schimmelmanna* from California and Japan. Pacific Naturalist, 2 (7): 3-8.
- 2) 広瀬弘幸 (1958) 但馬産海藻目録. 兵庫生物 3: 3.
- 3) KANG, J. W. (1965) Marine algae of Ullungdo Island in Japan Sea. Bulletin of Pusan Fisheries College. 6: 41-58.
- 4) _____ (1966) On the geographical distribution of marine algae in Korea. Bulletin of Pusan Fisheries College. 7: 1-137.
- 5) 岡村金太郎(1927)日本藻類図譜 V (9): 159-180.
- 6) _____ (1936) 日本海藻誌. 東京.
- 7) 瀬川宗吉(1938) ナガオバネの嚢果の出来方. 植物及動物, 6 (12): 17-20.

隠岐諸島産クロキツタ

Caulerpa scalpelliformis var. *denticulata*

の遊走細胞の放出孔形成について*

萩原 修** ・ 広瀬 弘 幸**

O. HAGIHARA and H. HIROSE: On the Formation of the Liberation tube of *Caulerpa scalpelliformis* var. *denticulata* of Oki Islands*

イワツタ属 *Caulerpa* の配偶子が放出される際には、まず葉状体上に長い突起が形成され、突起の頂端が開孔してそこから放出されることは既に DOSTAL¹⁾²⁾が *C. prolifera* と *C. ollivieri* について報じ、ついで SCHUSSNIG⁷⁾⁸⁾も *C. prolifera* の扁平部上に生ず

*文部省科学研究総合研究 No. 4086

**神戸大学理学部生物学教室 (神戸市灘区六甲台町1の34)

Department of Biology, Faculty of Science, Kobe University, Nada, Kobe, Japan
The Bulletin of Japanese Society of Phycology, Vol. XVII, No. 2, 67—70, Aug. 1969